

『宿泊産業活性化のための実証実験』報告会

趣旨

国土交通省では今後の国内旅行市場における宿泊産業を活性化していくために、泊食分離や長期滞在型の宿泊などの先進的なビジネスモデルの創出を促進するために平成18年度、19年度の2カ年をかけて先進的な取り組みを行うモデル事業を実施しました。

特に昨年6月に閣議決定された「観光立国推進基本計画」では、国内観光旅行の宿泊数を1人当たり年間4泊にする目標が掲げられたところですが、この実証実験は、その実現に向けた様々なアプローチ手法を地域や宿泊・観光産業の皆様提起するものとして非常に参考になるものと存じます。

全国8箇所(平成19年度は4箇所)で行われたこの事業の成果を広く観光関係者に向けて発表することにより、各地での今後の取り組みの参考となることを期待します。

1. はじめに

13:00-13:05 (5分)

「主催者挨拶」

国土交通省総合政策局 観光事業課長 花角英世

2. 泊食分離の実現へ向けての様々なアプローチ手法の報告

13:05-14:00 (55分)

(財)日本交通公社 研究主幹 大野正人

地域単位での泊食分離の実現手法には、旅館同士の夕食相互乗り入れや旅館と温泉街の飲食店の連携、朝食の分離や夕食の分離など、地域の特性や立地する宿泊施設の集積度合等により様々なアプローチ手法があります。モデル事業に応募した8地区(釧路市阿寒湖温泉、仙台市秋保温泉、仙台市作並温泉、佐渡市両津、浜松市かんざんじ温泉、神戸市有馬温泉、平戸市、京都市)について、その特性に応じた手法を分類、整理してご紹介します。

- ①「泊食分離料金体系設定」による需要創出モデル
- ②「食事別売り+地域での地産地消料理」設定による需要創出モデル
- ③「第三種旅行業による活動プログラム開発と組み合わせた連泊滞在商品による需要創出モデル
- ④「町屋、古民家等を活用した新たな滞在型宿泊施設」の開発による需要創出モデル

3. 泊食分離の実現へ向けてのパネルディスカッション

14:00-16:00 (120分)

実証実験をビジネスとして育成していくためには地域の旅館同士の協力体制やプロモーション手法等の様々な課題を解決していかなければなりません。モデル事業を実施した4地区の担当者からの報告をもとに、今後の事業推進の在り方と課題の解決策について会場の皆様も含めて意見交換を行います。

【パネリスト】

作並地区宿泊分離推進協議会 石堂信也

かんざんじ温泉魅力的協議会 宮津智史

有馬・神戸地域活性化戦略会議 金井啓修

平戸の宿泊を考える協議会 赤木 望

【コーディネーター】

(財)日本交通公社 研究主幹 大野正人

日 時

2008年 3 月 18 日(火) 13:00~16:00

会 場

国土交通省10階 共用会議室A (東京都千代田区霞ヶ関2-1-3 中央合同庁舎3号館 10階)

- 参加費 : 無 料
- 申込方法 : 裏面にて

2008年3月18日開催

『宿泊産業活性化のための実証実験』報告会

参加申込票

必要事項をご記入の上、3月13日（木）までに下記までFAX、または郵送ください。

FAX: 03-5208-4706

〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-8-2第一鉄鋼ビル9階 (Tel. 03-5208-4725)

(財)日本交通公社 孫、大野宛

会社名・団体名			
ふりがな 申込者1		(役職名)	
ふりがな 申込者2		(役職名)	
ふりがな 申込者3		(役職名)	
ふりがな 申込者4		(役職名)	
ふりがな 申込者5		(役職名)	
TEL		FAX	
E-mail			
記入欄			